

班会議報告書

「人間活動下の生態系ネットワークの崩壊と再生」プロジェクト

モンゴル文系班会議

2008年1月18日 13:00-17:30

@京都テルサ


出席者：12名

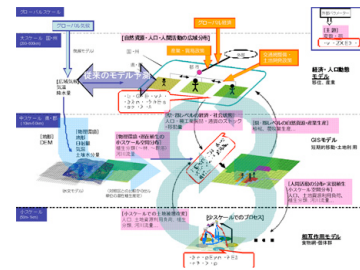
山村・藤田・市川・酒井
ナチン・中丸・西前・

会議の目的：2008年度のモンゴル班の調査

- ①各メンバーの調査計画の発表・確認
- ②メンバーの調査のプロジェクトでの位置づけや役割について
- ③理系調査との統合について
- ④実験経済学のための調査計画の紹介
- ⑤調査地の選定について（ガチョールトの特殊性など具体的な地名をあげ

て）

- (1) リーダー挨拶とモデル図を用いた説明 
(資料は2007年11月7,8日のHP上の会議資料等を参照のこと)



- (2) 藤田発表
文系メンバーがモンゴルの植生についての一般的な理解を持てるよう地域と植生についての (PPT 参照)
→どのように調査地で植生マップを作るかについての意見交換
→調査地の選定について

- (3) 前川発表
生態系ネットワークというキーワードによって、文系メンバーがどのような調査を設定できるか。「移動」という概念を3-4に分け、モデルスケールとの対応を図る。事前に配布してあったものに対する回答とプロジェクトでの位置づけについて (PDF 参照)
→移動の4分類の妥当性の議論など

- (4) 中丸発表
「他の民族とは異なる特性・性質を持っている」モンゴル人を対象に、その独自性を調査するための公共財ゲームの実施について。 (PDF 参照)
→被験者の属性によって結果が異なる（地方出身者と都市出身者の差など）
→調査実施の可能性について→調査準備コーディネーターの紹介・調整等

- (5) 上村発表
調査：牧畜民の世帯アンケート調査による牧畜における移動性の解明

仮定として、牧畜民が蓄積された伝承、本人の知識、伝聞をもとに、より適当な牧地をフィルタリングしている実態を明らかにできる。(PPT 参照)

→アンケートの具体的な内容についての質問

(6) ナチン発表

調査：GPS によるバヤンウンジュールの植生と家畜の移動の調査

前年度の降水量の当年の植生への影響、その植生の違いによる牧畜民の放牧地の選択について。(PPT 参照)

→家畜に GPS をつけ、データを集めることへの実現性についての具体的な討議

(7) 平田発表

調査：(移動性減退に伴う) モンゴル牧畜の変遷と生業構造の相対的位置づけ

ドンドゴビ県サインツァガーン郡・デレン郡における移動性の低下にともなう装置の退行と牧畜の変化についての調査を世帯調査から明らかにする。(Word 参照)

→ウシに特化し、畜舎を持った“酪農”(日本語の酪農ではなく、モンゴル語で Ferm に相当するもの)の調査ができるかどうか→Ferm 経営の実際の経験がある森氏と協議しつつ可能性を見る

(8) 鬼木発表

調査：都市部への移動民の調査

大都市周辺への牧民の移住が多い地域(オブス県)で、移住の要因、移住元地域における移住の経済的影響を調べる。

終了後：懇親会